

行政事業レビューシート (文部科学省)

予算事業名	高信頼ソフトウェア構築状況の可視化技術の開発普及	事業開始年度	平成19年度	作成責任者		
担当部局庁	研究振興局	担当課室	情報課	情報課長 岩本 健吾		
会計区分	一般会計	上位政策	情報通信分野の研究開発の重点的推進			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	—	関係する計 画、通知等	第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定) 第2次情報セキュリティ基本計画(平成21年2月情報 セキュリティ政策会議決定) 新たな情報通信技術戦略(平成22年5月高度情報通 信ネットワーク社会推進戦略本部決定)			
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	ソフトウェアは年々大規模化、複雑化しており、その不具合は、銀行や証券取引所等の事例のように、社会に大きな 混乱を引き起こすおそれがある。そのため、ソフトウェアが適正な手順で構築されているかを把握可能にするための技 術を開発し、ソフトウェアに対するトレーサビリティの概念を普及することにより、安心・安全なIT社会を実現する。					
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	ソフトウェアが適正な手順で構築されているかを把握可能にするため、ソフトウェア製品に添付してソフトウェアの設計 やプログラミング、テスト等のデータを収集、詳細に記録し、必要に応じて個々の状況を再現することによって発注者が 構築手順が適正であることを把握可能にする「ソフトウェアタグ」技術を世界に先駆けて開発する。これにより、ソフト ウェアに対するトレーサビリティの概念を普及させ、世界最高水準の安心・安全なIT社会を実現する。					
実施状況	<p>○平成19年に公募(応募数:2件)を実施し、1件を採択(研究開発期間:5年)</p> <p>○平成21年度までに、ソフトウェアタグ情報として必要な項目や形式をソフトウェアタグ規格として取りまとめるとともに、 実用化・普及に向けた取組として、ソフトウェアタグ規格についてJIS化やISO化に向けた取組を行っている。また、ソフト ウェアタグの利用シナリオの検討・作成や、ソフトウェアタグデータの収集や見える化を容易にする支援ツールの開発 を行っている。さらに、ソフトウェア構築における紛争や失敗事例について文献・判例分析を行い、ソフトウェアタグをど のように利活用するかの検討を実施している。</p> <p>○平成21年度に情報科学技術委員会において中間評価を実施し、研究開発が順調に進捗している点、成果を実利用 につなげるためのネットワークを構築している点、国際標準化を目指している点などが評価できる、とされている。</p>					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	100	80	85	90	71
	執行額	100	80	85		
	執行率	100%	100%	100%		
	総事業費(執行ベース)	100	80	85		
自己点検	支出先・使 途の把握水 準・状況	<p>○課題の管理に関する業務については、PD(プログラムディレクター)・PO(プログラムオフィサー)を中心とした課題管 理体制を確立し、継続的な課題管理を実施しているほか、実績報告書を毎年文部科学省に提出させ確認している。</p> <p>○経理面についても、個々の課題について採択時に複数年度にわたる事業内容を把握し、毎年度の事業について、計 画・実施・終了直後の各段階において書面・ヒアリング・現地調査により支出先・使途を確認している。また、年度ごとの 額の確定において、支出先・使途について支出1件毎に詳細に確認している。</p>				
	見直しの 余地	<p>○研究を自己目的化することなく、研究成果の実用化を見据え、ユーザー・関連企業等を含めたネットワークを通じて 実用化に向けたニーズを吸収するなど、効率的・効果的に研究開発を進めるべき。</p> <p>○その際、研究により得られる政策効果について、国民に対して積極的に情報発信を行い、研究に対する国民の理解 を得られるよう努めるべき。</p>				
予算 監視・ 効率 化チ ーム の所 見	<p>1. 事業評価の観点:この事業は、ソフトウェアの構築手順が適正であることを把握可能にするソフトウェアタグ技術の開発を推進 する競争的資金である。</p> <p>2. 所見:この事業は、「次世代IT基盤構築のための研究開発事業」の1プログラムであるが、昨年11月の事業仕分けにおいて、 別の事業に対して「競争的資金の一元化も含めたシンプル化」との指摘がなされたことを踏まえ、各プログラム同士の連携を強化 して効率化を図るなど、予算を縮減すべきである。また、「平成23年度科学・技術重要施策アクション・プラン」に沿って資金の使用 ルール等の統一化及び簡素化・合理化を進めるなど、研究者にとって使いやすく、かつ、国費が有効に使われるような事業にし ていくべきである。加えて、「次世代IT基盤構築のための研究開発事業」全体として、継続課題の終了をもって順次成果の統合・集 約を進めるとともに、それらが革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラの構築・運用に適切に活用されるよう、両者 の連携を図るべきである。さらに、これまで実施してきた各プログラムについて、公募型スキームとしつつも、実際にはテーマが限 定的であり公募になじみにくい内容となっているところ、新たな課題を開始する際には、公募を行わず実施機関を指定するスキ ームについても検討するとともに、他の事業に対する公開プロセスでの指摘等を踏まえ、競争参加条件等のより一層の見直しを図 るなど、契約の競争性、公平性、透明性を確保すべきである。</p>					
補 記						

文部科学省
85百万円

（ソフトウェアが適正な手順で構築されているかを把握可能にするための技術を開発し、ソフトウェアに対するトレーサビリティの概念を普及することにより、安心・安全なIT社会を実現）

職員旅費及び委員等旅費
計 0.2百万円 を含む

【公募等・委託】

A. 高信頼ソフトウェア構築状況の可視化技術の開発普及
:85百万円
大学・独法(全3機関)

（ソフトウェア製品に添付してソフトウェアの設計やプログラミング、テスト等のデータを収集、詳細に記録し、必要に応じて個々の状況を再現することによって発注者が構築手順が適正であることを把握可能にする「ソフトウェアタグ」技術を世界に先駆けて開発する。）

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

A. 奈良先端科学技術大学院大学					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	研究者、研究補助者 他	23			
間接経費		13			
業務実施費	電子計算機諸費(ソフトウェア開発 外注等)、雑役務費 他	13			
旅費	国内旅費、外国旅費	6			
設備備品費	ワークステーション、PC	2			
計		58	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につ
 いて記載する。使途と費目の
 双方で実情が分かるように記
 載)

※表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げと合計は一致しない。

「複数支出先ブロック」の支出先一覧(上位10機関)

A: 高信頼ソフトウェア構築状況の可視化技術の開発・普及

	支出先	支出額(百万円)
1	国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学	58
2	国立大学法人大阪大学	26
3	独立行政法人科学技術振興機構	1
合計		85